



ウッドバッジ実修所 ボーイスカウト課程第186期 参加案内

期 間 : 平成26年11月1日(土)～4日(火) 3泊4日 テント泊

開設場所 : 日本連盟・山中野営場
〒401-0500 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘
TEL : 0555-62-0141 FAX : 0555-62-0852

参加費 : 25,000円(消費税含む)

本状受領後1週間以内に日本連盟事務局宛にご送金ください。 *所長 村山*

送金方法 : (1) 郵便振替(同封振替用紙をご利用ください)

(2) 現金書留

(3) 銀行振込 名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

・三菱東京UFJ銀行 春日町支店 普通 No.0383873 *村田*

・みずほ銀行 本郷支店 普通 No.2855005 *小森*

※金融機関発行の振込送金書をもって領収書にかえさせていただきます。

※銀行振込の場合は「BS186」と必ず記載してください。

※参加辞退による参加費の取扱いは以下の通りとさせていただきます。

- ・集合日8日前(10月24日(金))までに申し出があれば事務経費1,000円を除く100%(24,000円)返金いたします。
- ・集合日3日前(10月29日(水))までに申し出があれば事務経費1,000円を除く50%(12,000円)返金いたします。
- ・10月30日以後の連絡、あるいは当日連絡のない場合は返金されません、ご注意ください。(参加辞退の連絡:日本連盟指導者養成課:03-5805-2634)

集合場所 : 日本連盟・山中野営場内 ピロティ

集合時間 : 平成26年11月1日(土) 9:30集合・受付開始

- (1) 遅参は原則として認められませんので集合時間を厳守してください。
- (2) 当日やむを得ず遅参となる場合は、上記開設場所に電話ください。

交 通 : (1) 公共交通機関

1. JR東海道線・御殿場線「御殿場駅」下車→富士急バス(山中湖・河口湖方面路線バス)にて「旭日丘」下車980円、徒歩20分。

御殿場駅発	旭ヶ丘着
8:10	8:47
9:00	9:37

*生記 村山
印子 来社*

2. JR中央線・富士急行線「富士山駅」下車→富士急バス（道志行き）にて、「富士急別荘管理事務所前」で下車640円、徒歩5分。

■JRと富士急行線の時刻表（念のため各自でご確認ください。）

新宿駅発	立川駅発	高尾駅発	大月駅着	大月駅発	富士山駅着
5:29	6:08	6:30	7:05	7:22	8:06
5:41	6:22	6:40	7:19	7:22	8:06
	6:46	7:04	7:41	7:51	8:34
6:03		7:04	7:41	7:51	8:34

■富士山駅からバス停「富士急別荘管理事務所前」までの富士急路線バスの時刻表

富士山駅発	富士急別荘管理事務所前着	備考
8:18	8:44	三島行き
8:58	9:24	御殿場行き

詳細は富士急行(Tel:0555-72-6877)へご確認ください。

(2) 自家用車

1. 東名高速道「御殿場IC」より山中湖方面へ（約30分）。籠坂峠を旭日丘へ向かい、約1kmのところ（ロジ花月園の看板）を右折。
2. 中央高速道「東富士五湖道路・山中湖IC」より御殿場方面へ。旭日丘を右折して籠坂峠へ向かい、約700mのところ（ロジ花月園の看板）を左折。

(3) 高速バス

1. 東京・新宿駅より京王、富士急バスにて・旭日丘（山中湖ターミナル）下車2,000円。ターミナルより徒歩10～15分。

※ 渋滞等で遅れる可能性がありますので、当日往路でのご利用はご遠慮ください。

●復路について

中央高速バスをご利用になる場合は、乗車予約をおすすめします。

中央高速バス電話予約センター 03-5376-2222(9:00～18:00)

解散予定は14時30分ですが、天候により閉所式の開始時刻が変更となる場合があります。山中湖バスターミナル（野営場より徒歩20分）発16時30分以降のバスをご予約ください。

服 装 : 指導者の正装

※ネッカチーフは自隊のものを、チーフリングはウォググルを着用のこと。

携 行 品 : (1) ボーイスカウト指導者手帳（スキルトレーニング別冊含む。必要事項を記入）

(2) 資 料

①現在の自隊の年間プログラム（課題研究の課題3で添付していれば不要）

②自隊で最近実施した隊集会実施計画書（2～3回分）

(3) 書籍

- ①ボーイスカウトリーダーハンドブック ②ボーイスカウト歌集
- ③基本原則（日本連盟発行書籍） ④日本連盟規程集（平成26年版）
- ⑤指導者のためのスカウトキャンプ ⑥スカウトハンドブック
- ⑦スカウティング：一つの教育システム

*書籍は当日現地では購入できませんので、事前に購入の上ご持参下さい。

(4) 3泊4日のキャンプ泊に必要なもの（参考例）

着替え、寝間着、防寒着、作業着、作業帽、作業用手袋、雨具、
替え靴（雨靴を含む）、寝袋、ロールマット、ロープ（6m）2本、麻ひも、
キャンプナイフ、雑巾・布巾各1枚、タオル、洗面具、シャワー用品、
ホイッスル、ハバザックまたはデイパック、懐中電灯（予備電池含む）、個
人用食器、水筒、携帯用カイロ、マイカップ、上履き、裁縫用具、マッチ、
新聞紙（多めに）、救急用品、持薬、虫除け（虫さされ含む）、筆記具、ノー
ト、資料綴り用ファイル（A4サイズ3cm以上 2穴）、登録証、健康保険
証、参加案内等の送付資料 など

*期間中の食材（米を含む）等は支給いたします。

*装備品は、リュックサックに収納すること（手提げバッグ不可）。

*麻ひも（ビニールひもは不可）は野営工作等に使用します。

*野営場は相当冷え込む日があります。寒さ対策を万全にし、防寒具等を忘れ
ずにご用意ください。

(5) その他必要と思われるもの

解散日時：平成26年11月4日（火）13：30頃 於：現地

提出物：(1) 事前に提出するもの（FAX・メール可）

①事前調査書（アンケート） 10月22日（水）必着

②来場手段確認票 10月22日（水）必着

*送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷1-34-3

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局 教育部指導者養成課

「ウッドバッジ実修所ボーイスカウト課程第186期係」

FAX：03-5805-2908 E-mail：training@scout.or.jp

(2) 受付時に提出するもの

①ボーイスカウト指導者手帳（スキルトレーニング別冊も含む）

②写真1枚（たて・よこ3.5cm×2.5cm 裏面に県連盟、氏名を記入のこと）

健康・衛生：(1) 本コース開設時期はインフルエンザ・O157・ノロウィルスの病気の流行
期ではありませんが、平素より基本的な予防策（手洗いやうがいなど）を励
行していただくとともに、集合日当日には検温を行い、平熱であること、腹
痛を伴う下痢、嘔気、嘔吐の症状が無いことをご確認の上ご参集ください。
特に罹患後に重篤になる可能性がある基礎疾患のある方は、ご自身の健康チ
ェックを十分に行った上でご参加いただきますようお願いいたします。

(2) 現在服薬中の方は、必ず日数分のお薬等をご持参頂くとともに、当日受付時に
その旨を申し出て下さい。

- (3) 研修中に疑われる症状を自覚された場合は、速やかにスタッフに申し出て指示に従うようにしてください。医療機関の判断により、やむなく帰宅となる場合もありますことをご承知おきください。

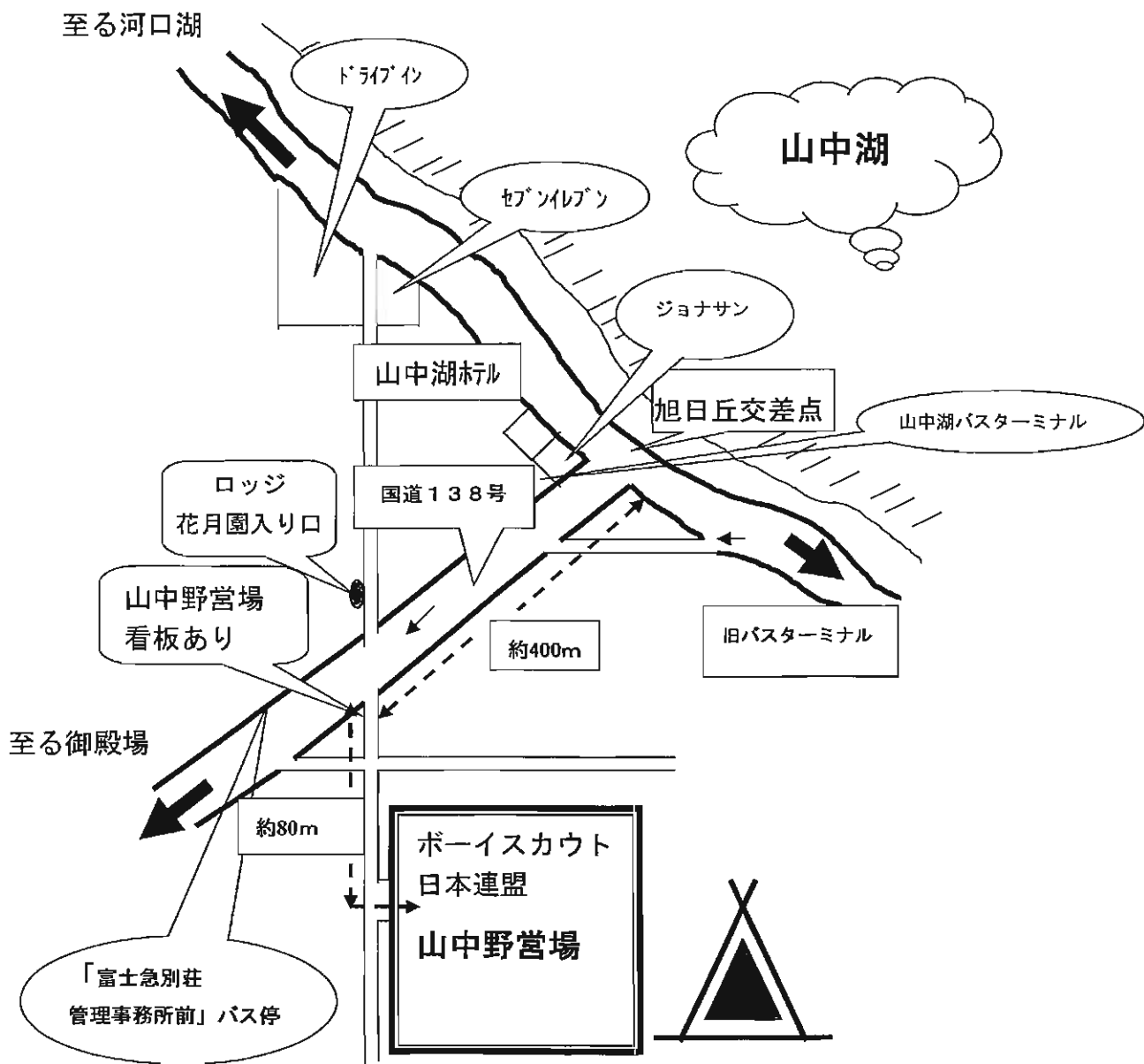
- 備考：(1) 期間中、参加者への伝言は受け付けますが、電話の取次ぎはいたしません。
(2) 携帯電話等の電源について、研修中はお切りいただき、管理・充電は各自で対応ください（会場の電源使用はできません）。
(3) パソコン、録音機器の持ち込みはご遠慮ください。
(4) 開設場所への宅配便等による個人装備の事前送付を受け付けます。送付する場合は10月31日（時間指定は午後）に指定し、送り状の品名欄に「ボーイスカウト：BS186」と明記してください。
　　<送付先>日本連盟・山中野営場
　　　　　〒401-0500 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘
　　　　　TEL：0555-62-0141 FAX：0555-62-0852
(5) 開設場所での前泊を希望される方は、来場手段確認票にてお申し出ください。
(6) 自家用車での来場は可能です。途中、渋滞等の発生も予想されますので、余裕を持ってお出かけください。
(7) 「個人装備自己点検表」は集合当日に再チェックを行いますので必ずお持ちください。
(8) SNSについて、コース期間中の発信はご遠慮ください。

【同封資料】

- ① 参加決定通知
- ② 参加案内（本状）
- ③ 日程表
- ④ ウッドバッジ実修所の目的と目標
- ⑤ セッションの目標
- ⑥ 事前調査書 （10月22日（水）必着）
- ⑦ 会場への来場手段確認票 （10月22日（水）必着）
- ⑧ 個人装備点検表
- ⑨ 郵便振込取扱票

以上

案内図



ウッドバッジ実修所の目的と目標について

実修所の目的は、教育規程に以下のように示されています。

ウッドバッジ実修所は、隊指導者基礎訓練課程を修了した後、隊指導者の経験を有する者を対象として開設し、参加者が当該部門の隊長としてのプログラム推進能力を高めることを目的とする。

②第二教程に進む前には、スキルトレーニングを修了することが条件となる。

③ビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト及びベンチャースカウトの各課程に区分して開設する。
(教育規程 施行細則 8-3-5)

参加者が研修を通して達成される学習の到達目標については、各課程とも共通に以下の目標を設定しています。

ウッドバッジ実修所の参加者は、このコース修了後次のことが達成できる。

1. スカウティングの原理と方法に則ったプログラム企画ができる。
2. プログラムプロセスに従った教育効果の高いプログラムが推進できる。
3. スカウト、保護者及び地域社会に対するアプローチを効果的に実施できる。
4. 野営生活を通じ、高度の班野営を体験することにより、スカウティングの本質の理解を高める。

実修所は、隊指導者訓練の上級訓練として位置づけられ、この目標を達成することにより「スカウト教育の目的と方法と価値を一層深く確信」し現場での実践で生じた問題点を解決するための糸口をつかみ、かつ、解決に向けての動機付けが図れるように構成されており、これはグループ学習とキャンプ生活を活用したグループワークという学習方法で実施されます。

ウッドバッジ実修所ボーイスカウト課程 セッションの目標

	セッション	セッションの目標
第1日	§ 1 グループディスカッション (昼食を含む、120分)	1. プログラムトレーニングの目的と目標を理解する。 2. 自己の訓練ニーズを整理し、プログラム立案に必要な要件を認識する。
	§ 2 ボーイスカウト隊のプログラムプロセス (180分)	1. ボーイスカウト隊のプログラムプロセスを再認識する。 2. ボーイスカウト隊のプログラムの多様性について理解する。 3. スカウト教育法にそったプログラム展開について認識する。
	§ 3 ボーイスカウト隊のプログラム (120分)	1. ボーイスカウト隊の隊集会に必要な要素を理解する。 2. ボーイスカウト隊の活動目標とプログラムの関係を深く理解する。 3. 班制教育と進歩制度がプログラムに深くかかわることを理解する。
第2日	§ 4 プログラム企画 (180分)	1. スカウトスキルを活用したプログラムを企画することができる。 2. スカウトの自発活動を促すプログラム企画をすることができる。 3. 野外活動(ハイキング・キャンプ)につながるプログラムを企画することができる。
	§ 5 プログラム計画 (180分)	1. ボーイスカウト隊のプログラムプロセスに沿った隊集会計画書を作成することができる。 2. 隊集会につながる班集会計画書を作成することができる。 3. 班制教育を十分に活かした班長訓練計画書を作成することができる。 4. スカウトの進級に考慮したプログラム展開を理解する。
	§ 6 プログラムプレゼンテーション (90分)	1. プログラムの事前評価の必要性について理解する。 2. 評価の内容を実際の展開に活かすことができる。
	§ 7 プログラムの実施準備 (120分)	1. プログラム展開のための資材準備ができる。 2. プログラム展開における役務分担を理解する。 3. プログラム活動における安全管理ができる。
第3日	§ 8 プログラム活動 <i>A9-</i> (昼食を含む、330分)	1. 計画書に基づいた活動を実施展開することができる。 2. プログラムの実施展開について実際に必要な項目を理解する。 3. プログラム活動における隊長の役割と責務を理解する。
	§ 9 プログラムの評価 (90分)	1. 評価の必要性を理解する。 2. 評価の方法について理解する。 3. プログラム活動における評価を行うことができる。
	§ 10 成人の支援とアプローチ (90分)	1. ボーイスカウト部門の活動における成人の具体的な活用方法について理解する。 2. 隊を取り巻く成人とのコミュニケーションの重要性を理解する。
	§ 11 自隊のプログラム作成 (120分)	1. 自隊の状況にあったプログラム立案ができる。
第4日	§ 12 よりよき指導者と楽しい活動に向けて (90分)	1. 実務訓練について理解する。 2. インサービスサポートについて理解する。 3. 役割と責務を果たすために継続的な自己研修の必要性を理解する。

FAX: 03-5805-2908 E-mail: training@scout.or.jp

※ 以下についてご回答いただき、事前調査の送付時に同送してください。

WB 実修所BS第186期 会場への来場手段確認票

神奈川県連盟 氏名中川知之

① 来場手段 *括弧内に○を付けてください(末尾の括弧内にも)

- (○) 自家用車で
- () 他の参加者の車に同乗(運転者名)
- () 公共交通機関で(駅よりバス)
- () その他()

② 到着予定時間 11月 / 日 8:30

③ 前泊希望の有無

有 ・ (無)
 有りの方は下表の要否いずれかに○を付けてください
 ※食事は、各自でご用意いただくか、済ませた上で、ご来場ください。

	宿泊 1100円
10/31	要・否
11/1	—

④ 宅配便による装備品の事前送付 (10月31日13以降の期日指定必着)

*括弧内の一方に○を付けてください

(希望する ・ (希望しない))

ウッドバッジ実修所第二教程 ボーイスカウト課程186期 事前調査

以下の「事前調査」に記入して、10月22日(水)日本連盟指導者養成課必着でご提出ください。
E-mail : training@scout.or.jp

目的：参加者とチューターが、参加者の現状を把握し、実修所での訓練・研修に活用する。

都道府県連盟	地区名	団名	隊	隊役務	氏名	年齢
神奈川	横浜南央	96	BS	隊長	中川和之	58

1 あなた自身について (平成26年10月1日現在)

項目	記入例	記入欄
BS指導者(隊長)奉仕歴	隊長7年、副長1年	隊長1年 副長1年
指導者研修歴	CS研、VS研、CS実	CS研、VS研、CS実、23研
スカウト歴	CS、BS	CS、BS、ニア
得意なスカウトスキル	手旗、読図	
不得手なスカウトスキル	パイオニアリング	
指導者としてのキャンプ泊概数	30泊以上	
宗教	仏教(浄土真宗)	神道
職業(具体的に)	公務員(教職員)	会社員(通信社記者)
高等学校以上での専門学習分野	教育学部教育学科	教育学部
特技・資格等	登山	元中火所経理主任、日本バレーボール協会役員
趣味	旅行、読書	
スカウトに指導できる特技	オリエンテーリング(指導員)	
学生時代の部活動歴	山岳部	バドミントン部
プログラム立案参考特記事項	考古学者が夢だった。	大抵のものは生活履歴を つなぐ必要理解、防災全般

2 あなたの隊・団について

(1) 指導者の現状

役務	人数	特記事項(例:実働は50% 不在)	転任者(人数)
副長	5人 (5人4人)	BS実研修による副長が、転勤で退職して4人いる。 前隊長も副長がいる。次期隊長は2年目の副長(和智)。(BS研済み)	転任者0人か1人か 4人か5人か
副長補	1	スガの出身の25才。中学行けど3から3(キコ)の。現在は父の仕事を手伝い。今其母がSGB担当で実働中	
上班	1	VS(第2)の単の取得を目指している。実働はほとんどない	
隊付			

(2) スカウトの現状(人数)

区分	男子				女子				計
	小6	中1	中2	中3	小6	中1	中2	中3	
ボーイスカウト									
初級	3								3
2級		3							3
1級									
菊									
合計									

(3) 隊の現状

項目	有 無	有りの場合(約)	特記事項 (例: 班集会参加率が低い。)
班 数	有	1 個班	
班長会議開催数	有	10 回/年	GB 会報として実施
班長訓練開催数	有	10 回/年	GB 訓練として実施
班集会開催数/班	有	14 回/年	
隊集会開催数	有	13 回/年	
隊キャンプ泊数	有	10 泊/年	1ヶ団体 3泊
隊ハイク	有	5 回/年	
班キャンプ泊数/班	有	2 泊/年	
班ハイク/班	有	1 回/年	
夏季キャンプ泊数	有	3 泊	
保護者会	有	3 回/年	

(4) 団関係

項目	有 無	有りの場合	特記事項 (例: 団会議、団委員会は合同開催)
団委員		10 人	
団会議開催数		12 回/年	
団委員会開催数		12 回/年	
育成会関係会議		3 回/年	

(5) プログラム関係

項目	有 無	特記事項
		例: リーダーハンドブックの様式を模して作成 例: 独自の書式で作成している。 例: 指導者が作成している。 例: スカウトが作成している。 例: 指導者・スカウトが協働で作成している。
年間プログラム	有	独自
月間プログラム	有	独自
班長訓練計画書	有	メールでリストがないか、内容が正しいかは確認
班集會計画書	有	HIB様式に加えスカウトがPCで入力可能な形式で入力
隊集會計画書	有	HIB様式で作成

3 隊で困っていること

項目	記入欄 (特に1点一言で)
スカウトに関すること	中1のG.B.が、部活動、野球、スカウトの人数が少なくて
スカウトの指導に関すること	中1のG.B.なので、徐々に自信をつけさせること (G.B.トレーニングが実施中)
指導者に関すること	次期隊長への呼びかけ
プログラムに関すること	G.B. (中1の3人) が参加できず時間を前提出し計画せざるを得ないこと (班長指示書など使用済)

保護者に関すること	5家族のうち、2家族が指導者。他の3家族の担任が担当。保護者会以外に、参加プログラムを年2回開催中。
団・他隊に関すること	組立。特に（5隊への活性化。5年次の身体材料を目標にのぞき。国の体制への両講義。
その他	

- 4 本コースにおける、あなたの訓練・研修ニーズ3点を箇条書きでご記入ください。
本コースは、プログラム立案能力向上を目指したコースのため、プログラムに関するニーズとします。

1	スカウトニーズをベースに（仮か）も、7012から企画、実施プログラムで、隊長の1人継ぎをスムーズに行うプログラムを以て
2	若年層で参加する人材を伸ばすスカウト活動、引き続き他隊に参りたい。スカウト活動をしたいため、7012から7012を参りたい。
3	保護者や、可能な限り中学校を参りたい。スカウト活動と若年層を2者採、1人採りたいため、7012から7012への参画を参りたい。

- 5 本コース参加にあたって、貴方が指導・支援を受けられたのは何方でしょうか。

項目	有 無	例：コミッショナー 例：トレーナー 例：先輩指導者 例：その他
指導・支援を受けた方	有	地区コミッショナー - 副コミッショナー ALT

お疲れ様でした。体調管理に留意されてご参加ください。スタッフ一同お待ちしております。

WB実修所 ボーイスカウト課程 第186期

オリエンテーション ノート

26年1月1日
BS 3rd

26年1月1日
BS 3rd

チューター
佐藤 隆
山本 浩

BS 3rd

BS 3rd

BS 3rd

BS 3rd

期間：平成26年11月1日(土)～4日(火)

場所：日本連盟・山中野営場

グループ 氏名 山本 浩

14 入浴について

別途、担当所員より指示します。

15 喫煙・飲酒について

野営場での喫煙場所は指定されています。(場所: 野営場-とろろのり)

コース期間中は禁酒とします。

喫煙場所以外での喫煙やコース期間中の飲酒が発覚した場合は、コース期間中であっても参加を取り消し、帰宅していただきます。

16 グループ報告書について

報告書は、所定の用紙に記入の上、毎朝点検時に担当所員に提出してください。

また、画用紙に自由楽しく、グループ独自のものを作成し、掲示板に掲示してください。

(例: G名、日付、氏名、グループの目標、モットー、感想、意気込み、ニュース、トピックス等)ワンパターンにならないように。

17 教材・教具について

セッション時には常に携行し、支給品は破損、紛失しないように大切に扱ってください。

持参した参考図書・筆記用具・配布資料をセッションに携行してください。

ノートは常に携行し、セッションでの記録以外に、感想・スケッチ等にも活用してください。ノートの記録は、今後の貴重な財産となります。

18 配給について

食材は、配給食材表に記載されたもの全て(全日程分 調味料等含む)を初日に一括で配給します。食材の管理は各グループにてお願いします。生鮮食料品は参加者用冷蔵庫に保管しておくことも可能です。

献立は食材配給表を確認の上各グループで決定し、配給された食材はすべて使い切ってください。

※使い切ることを原則としますが、万が一余りが出た場合は、グループ内で分担してお持ち帰りください。

※調味料の余りについてもお持ち帰りください。

19 場内施設について

屋外トイレは、富士見広場入口脇のものを使用します。本館では、2階のトイレを使用します。

ピーパーコースが併設されているので、中央広場への立ち入りは厳禁。

野営場の水場は、水汲みにだけ使用する。洗い物は厳禁。

20 安全管理について

各グループに安全係(健康・衛生係兼務可)をおいてください。コース期間中は同じ人が役務を担当してください。1日1回安全担当者ミーティングを実施します。(別途指示)

安全、健康・衛生担当所員は(下 所員)です。

個人の健康は、それぞれが管理し、具合の悪いときは、速やかに担当所員に申し出てください。

(セッション中のトイレ利用も同様です。)

21 電話・通信機器やカメラ等の使用について

電話及び通信機器は、セッション中は電源を切ってください。

他の時間でも、他の方に迷惑にならないように心掛けてください。なお、コース期間中はSNSの利用はひかえてください。

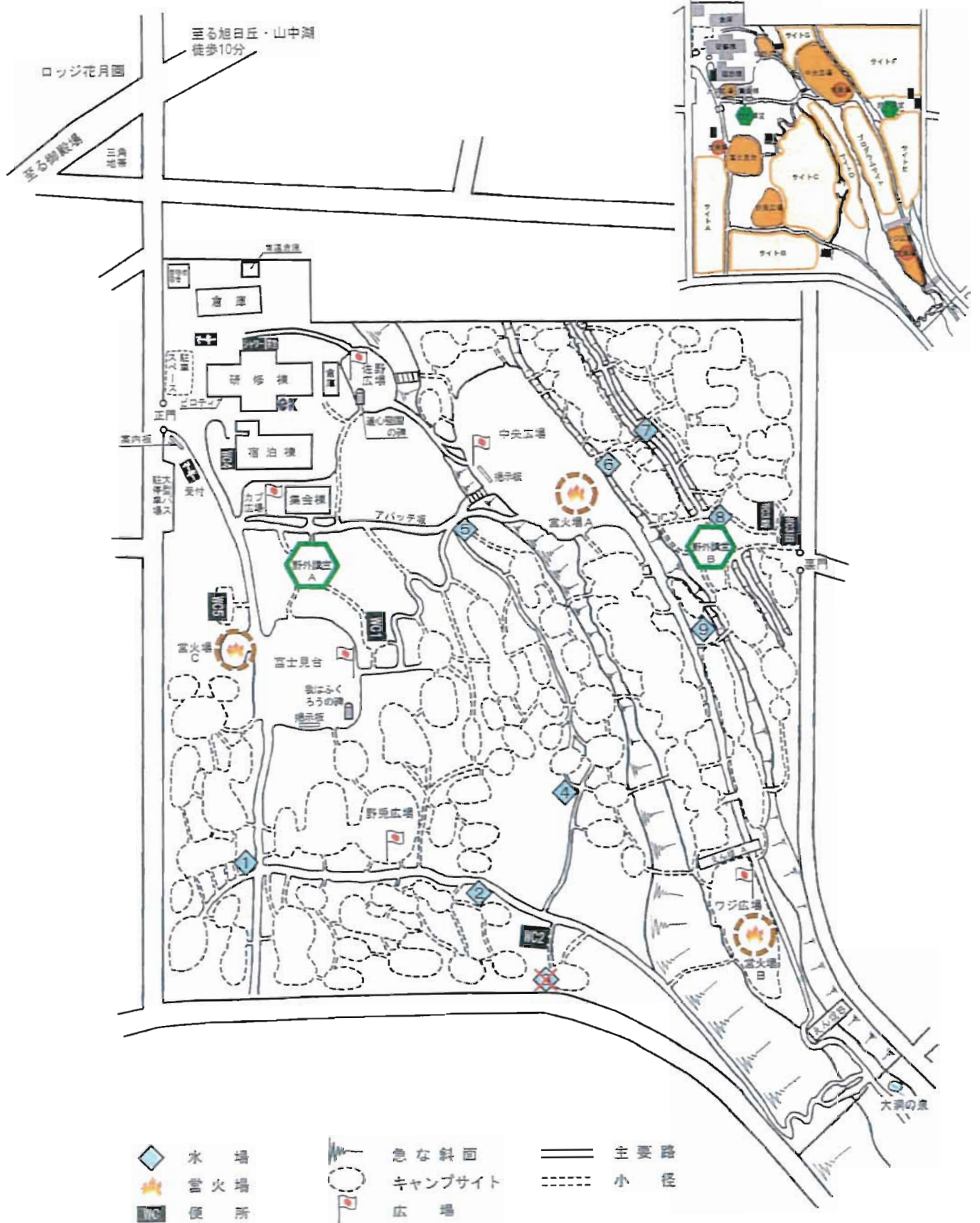
セッション中のカメラの使用については、セッション担当所員の許可を得てください。

22 マイカップは、常時携帯してください。

23 その他

・所員室への入室には、必ず許可を得てください。

ボーイスカウト日本連盟 山中野営場サイト図



キャンプ場案内図

1 自己紹介(表紙に、名前・所属等を記入してください)

2 基本日課について

原則として、日程表に基づいて進めます。(変更する場合は、事前に指示します。)

3 服装について

毎日の点検・朝礼と閉所式、及び指示のあった場合は、制服とします。それ以外は研修に相応しい服装としますが、スマートネスに心掛け、研修に相応しい服装とします。名札は、常に身に付けてください。所員も同様となりますので、ご了解ください。

※スマートネス: スカウトらしい洗練された節度のある着こなし、機敏な態度、きびきびとした言動。
服装はもとより、人に接する態度、言葉使いにおいてスマートであること

4 グループ内の任務について

グループで相談して全員が分担し、毎日交代します。

G長、安全(期間中を通して)、等、その他の役割を、班役務分担表に記入し、1部を初日の夜のセッションの前に担当所員(チューター)に提出してください。

5 当番グループの仕事について

国旗掲揚および国旗降納の準備と掲揚・降納

セッションの「開始」と「終了」には、当番グループ長の合図で節度を保つ

共用場所の整備と清掃の企画と指示

報告書および提出物の取りまとめ

指定時刻の厳守(5分前集合の励行)

その他指示のあった事項

当番グループの交代は、「今日の話題」終了後とします。また、交代のセレモニーは実施しません。

8 共用場所の整備・清掃について

担当所員より、当番グループに指示のあった所定の場所の整備・清掃を行ってください。

当番グループは、各グループの翌日の担当場所を各班に分担してください。

・[野外トイレ(男女)] [キャビン(トイレを含む)] [水場] [富士見広場]

* 4日目については、撤営の際にも清掃をしてください。

9 ゴミの処理について

ゴミは、分別して保管し、指定された方法(掲示版に掲示)で処理する。

ゴミ袋には「ボーイスカウトBSOOG」と明記する。

生ゴミは、水分を切ってから出す。保管中は、衛生面や野犬等に注意する。

キャンプサイトの排水穴には、ゴミや残飯を流さないように、充分注意する。

その他、所員の指示に従ってください。

10 課業(セッション: §)の場所は、その都度指示します。

11 他のグループの参加者との交流は、休憩・その他等の時間に積極的に行ってください。

12 点検について

担当所員が毎朝(8:00)より実施します。点検を受ける時は、各グループ全員がGサイトに整列して待機してください。その際に、「グループ報告書」を担当所員に提出してください。

全グループの点検後、(野見広場)で点検講評を行います。

13 朝礼は、毎朝(8:30)から行います。

場所は、[野見広場]で行います。朝礼の企画・進行は当番グループが担当しますので、プログラムを担当チューターに前日夜に提出してください。

3 = 100% 2 = 80% 1 = 60% 0 = 40%

分類	達成度評価	コメント
知識・技能・心構え	0. 1. ② ③	2015年11月20日(土) 18:00 表紙の裏面に 対し(世の中は)より、金銭的負担を減らすこと。
知識・心構え	2	保つておけること。 即ち、もともと(100%)⇒80%に スワフトの金額を減らす保つておけること。
知識・心構え	3	保つておけること。スワフトは60%の目的を達成していること。
知識・心構え	0	
知識・心構え	0	
知識・心構え	2	
知識・心構え	3	2015年11月20日(土) 18:00 中心の金額を減らすこと。
知識・心構え		
知識・心構え		
知識・心構え		
知識・心構え		
知識・心構え		
知識・心構え		
知識・心構え		
知識・心構え		

並
和列

プログラム立案に必要な要件

区分	必要な要件 <i>条件、ポイント</i>
<p>人的 物的 人的</p>	<ul style="list-style-type: none"> - スケジュールのニーズを伺く - 人材への要件 → スキル等 - 場所の確保 - 受講者の人数 - 予算 - 2012年4月実施、減少 - 評価者へのフィードバック - 時間の確保 - 連絡経路の確保 - 安全の確保 - 指導者へのサポート - 進捗に合わせた - 研修者の意識に合わせた - 達成感があふれる成果発表が出来る - 同じ土壌で（仕組み作り）、この研修 内容と比例した柔軟な対応 - 団体の声

自らが学習内容を振り返ることができるよう、自己評価表の記入をお願いします。

記入要領

セッションの自己評価及び日々の感想

1日目 11月1日		グループ名：	氏名：
§ No	【セッション名】 (自己評価項目)	達成度	自己評価記入欄
§ 1	【グループディスカッション】		
	①プログラムトレーニングの目的と目標を理解できましたか。		
	②自己の訓練ニーズを整理し、プログラム立案に必要な... できましたか。		

各セッションごとに自らの達成度を下記のとおり記入します。

- A：十分達成できた
- B：達成できた
- C：不十分

セッションの中で、

- ・役に立つと思ったこと
- ・自隊に活かそうな事
- ・疑問の残ったこと
- ・後で確認したいこと

などを自己評価し、
具体的に記入します。

※ 上記は、各セッションの終了時に振り返り、「今日の話題」時にもう1度、自己評価しましょう。

◆新たな気づき、参考になったこと、考えたこと

1日のセッション終了後、自己評価を参考にして書きま
しょう。

- ・自分の能力をさらに研鑽し、伸ばしたこと
- ・自分に不足している能力で、さらに学習が必要なこと
- ・何か、今後のヒントになりそうだと気付いたこと

◆本日の感想記入欄

セッション以外で感銘したこと
メンバーから学んだこと
生活上の満足、不満足なこと

◆チューターからのコメント欄

サイン：

毎日、「今日の話題」までに記入を済ませ、チューターに提出してください。

活動	スカウト教育法	具体的な活動(行動)	工夫した点	教育法を取り入れるための課題
班長会議	ちかいとおきて	始まりと終りにスカウトの歴史について「私は良いリーダーになりた」と言う。	続けさせること 共通の環境に「まじりこ	
	小グループでの活動	第1班班長を支援させる。	GBの4人で考えをいっせにする	
	行うことによって学ぶ	自分の著作。PCに直接入力 するここと「あきらめず」	自分の著作を自分で入力、PCを 使うことで、モバイル・シカゴの場	
	象徴的枠組み			班長会に「想定」などを 考えさせるよりの「あきらめ
	個人の進歩	班長を支援するために「あきらめず」 GBの進歩の「ニーズ」を伝える	進歩のファイルを班長が管理 （この日は極力「あきらめず」を共有する	
	成人の支援	リーダーへのリクエストがあるかを 確認する	考えは「あきらめず」を共有に「あきらめず」 「ニーズ」があるかを「あきらめず」	
	自然の中での活動	天気が良い時は団舎前の 野原で活動させる		
班長訓練	ちかいとおきて	始まりと終りに「あきらめず」 「あきらめず」と言う。		
	小グループでの活動	班長に「あきらめず」を「あきらめず」 「あきらめず」		
	行うことによって学ぶ	考えは「あきらめず」を共有することで 深く学ぶ		
	象徴的枠組み			
	個人の進歩	訓練の段階でGBの進歩が 4人でできるようになる。		
	成人の支援	ササリスの支援を受ける		
	自然の中での活動	2年生は団舎前の 野原で活動させる		

同一の場で行われる

あきらめず

活動	スカウト教育法	具体的な活動(行動)	工夫した点	教育法を取り入れるための課題
班集会	ちかいとおきて	はきと息をとり、という。		
	小グループでの活動	G.B.が班長で先導から 進行の進み具合で班長が指示を出すという。班長の交代には気を配る。		
	行うことによって学ぶ	技能などは実践で学ぶ。		
	象徴的枠組み	班歌、班歌の歌詞		班集会の趣意をよりしめ、 隊長のBPが5分程度をばらばらに
	個人の進歩	班長をより任せ、リーダー の役割を担わせるように指導している。		
	成人の支援	場所の確保、必要物資の準備、班長の指導、安全確保		
	自然の中での活動	どきどき団倉庫前の庭先で 実施している。		
隊集会	ちかいとおきて	おしとこ、まきと息を とり、班歌、班歌の歌詞		
	小グループでの活動	班長が班長で、ゲームなどは 行わせるようにしている。		
	行うことによって学ぶ	なにかしら班長でやる べきこと、班長を育てる。		
	象徴的枠組み	班歌、班歌の歌詞、たよりな 無名同士の協力		
	個人の進歩	班長、班長が班長に なっていく。		
	成人の支援	団内伝書のおしとこ出席などで よく指導している。		
	自然の中での活動	どきどき団倉庫前で。		

しんりてのたぐい

活動	スカウト教育法	具体的な活動（行動）	工夫した点	教育法を取り入れるための課題
その他 （ ）	ちかいとおきて			
	小グループでの活動			
	行うことによって学ぶ			
	象徴的枠組み			
	個人の進歩			
	成人の支援			
	自然の中での活動			
その他 （ ）	ちかいとおきて			
	小グループでの活動			
	行うことによって学ぶ			
	象徴的枠組み			
	個人の進歩			
	成人の支援			
	自然の中での活動			

ボーイスカウト部門の活動の目標

- 1 神仏尊敬自分任務敢行
- 2 野外活動大自然知
- 3 役割責務果学
- 4 有用知識技能習得
- 5 判断決断力養成
- 6 特性長所覚醒創造力伸展
- 7 健康増進身体強健
- 8 好奇冒険心満足活動
- 9 リーダーシップ獲得
- 10 他人役立奉仕活動
- 11 フェアプレー精神正義感養成
- 12 愛感謝心養成
- 13 国際理解学習体験

隊集会計画書分析用紙

追加	隊集会 項目	該当する活動の目標	該当する7つの要素
	乾	3分着	行) 2
	七上二	13日開演	七上二
	キム	8分着 11分着	五上二 行)
	1分着 2分着	9分着 10分着	五上二 行) 七上二
	1分着	6分着 7分着	=
	1分着	↓	1分着 七上二
	七上二		=
	八上二		八上二

平成21年7月6日 第11回 子どもの徳育に関する懇談会

子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題

学童期（小学校高学年）

9歳以降の小学校高学年の時期には、幼児期を離れ、物事をある程度対象化して認識することができるようになる。対象との間に距離をおいた分析ができるようになり、知的な活動においてもより分化した追求が可能となる。自分のことも客観的にとらえられるようになるが、一方、発達の個人差も顕著になる（いわゆる「9歳の壁」）。身体も大きく成長し、自己肯定感を持ち始める時期であるが、反面、発達の個人差も大きく見られることから、自己に対する肯定的な意識を持たず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。

また、集団の規則を理解して、集団活動に主体的に関与したり、遊びなどでは自分たちで決まりを作り、ルールを守るようになる一方、ギャングエイジとも言われるこの時期は、閉鎖的な子どもの仲間集団が発生し、付和雷同的な行動が見られる。

現在の我が国における小学校高学年の時期における子育ての課題としては、インターネット等を通じた擬似的・間接的な体験が増加する反面、人やもの、自然に直接接触するという体験活動の機会の減少があげられる。

これらを踏まえて、小学校高学年の時期における子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。

- ・抽象的な思考への適応や他者の視点に対する理解
- ・自己肯定感の育成
- ・自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養
- ・集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成
- ・体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり

青年前期（中学校）

中学生になるこの時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気づきはじめるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索しはじめる時期である。また、大人との関係よりも、友人関係に自らへの強い意味を見いだす。さらに、親に対する反抗期を迎えたり、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあり、思春期特有の課題が現れる。また、仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。性意識が高まり、異性への興味関心も高まる時期でもある。

これらを踏まえて、青年前期の子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。

- ・人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の在り方に関する思考
- ・社会の一員として自立した生活を営む力の育成
- ・法やきまりの意義の理解や公德心の自覚

清規三事
佐野常羽
実践躬行
精究教理
道心堅固

清規三事 (チンギサンジ)

佐野常羽氏によって示された指導者の道標。英訳も示された。

実践躬行 (Activity First)

(スカウティングには自らの実行が第一である。)

精究教理 (Evaluation Follows)

(実行にはその価値を評価反省し、そして理論の探求が必要である。)

道心堅固 (Eternal Spirit)

(実行・評価反省を繰り返し「さとり」をひらき、永遠に滅びることのない心境を開く。)

①スカウトスキル	②スキルを身に付けさせるための問題点	③原因と解決
0-701-2	サマソフの経験が乏しく、技能の習得が難しい	団体で0-701-2のスキルを習得する機会が少ない
火おこし	少人数での練習が難しい	地域の活動で練習の機会を増やす
野営工作	村会が少なく、小規模な活動が多い	地域の活動やイベントでの練習機会を増やす
手廻	村会が少なく、練習機会が少ない	練習会や講習会を開催する
地図と2-1107	地図の読み取りが難しい	
器楽演奏	楽器の知識が不足している	楽器の講習会や演奏会を開催する
野外料理	メニューの作成が難しい	野外調理の講習会を開催する
会議進行記録	記録の取り方が分からない	会議進行の講習会を開催する
計画書の作成	計画書の作成が難しい	PCを使い、入力しやすいように作成する
指導法	地域の活動で指導法を学ぶ機会が少ない	国内での指導法講習会を開催する

ボーイスカウト隊 平成 年度 月度 月間プログラム《企画書》記入例
氏名

テーマ	(スカウトにとって魅力を感じるテーマ、スカウトが決める)	活動分野	キャンプ技能 など
目標	具体的な活動、到達度合い等を設定する。 例) ○○に必要な□□を身に付ける。など		
関連進歩	関連する進歩課目について記入	ソング	年間プログラムで設定されたソングを記入
隊集会	平成○○年□□月△△日□□時から△□時まで 場所 ○□△	当番班	□△◎班
班長訓練	平成○○年□□月△△日□□時から△□時まで 場所 ○□△	班長会議	平成○○年□□月△△日□□時から△□時まで 場所 ○□△
班名	班集会	区分	プログラムの内容
班		隊	例) ・立ちかまどを作成し、野外調理を行う。 ・班で献立を作成し、材料を調達し、調理し、全員で試食を行う。試食後投票を行い、「ベストクッキングパトロール」を認定する。 □太枠内は班長会議で班長から意見を聞き取り、 隊指導者がアレンジする。
班	班集会の日程や活動内容の企画を班長が考え記入する。	班	例) ・立ちかまどに必要な材料を調べる。 ・立ちかまどに必要なロープワークを練習する。 ・肉、野菜、魚の中から1つを選び、献立を作成する。
班		個人	例) ・立ちかまどに必要なロープワークを練習する。 ・班会議で提案できるよう献立を考える。
班		連絡事項	例) ・食材費は1名あたり500円。献立が完成したら、上級班長のチェックを受け、班の会計係は○□副長から食材費を受け取る。また、会計報告を作成するため、必ずレシートを保管すること。 ・隊費の納入は○月○日なので、班長は班員に連絡すること。 ・班集会の日程が決まったら□△上級班長へ連絡すること。

月の班目標：(班で決めたことを記入)

班

- ・ベストクッキングパトロールを勝ち取る!

月の個人目標・進歩 氏名：

- ・1級章課目のロープワークに挑戦する。
- ・ターゲットバッジ「野外料理」「キャンプクラフト」に取り組む。

11月26日(月) 7:25分
g/A
=ーズ

隊集会実施計画書

集会日時: 12月23日

集会場所: 山田野球場

テーマ: アウトドア
レストランホム亭 X'mas.
5-4

当番班: ハヤブサ

活動分野: 野外料理

進歩課題: E2-3, E4-2, 3, 4, 5, A1-2の78%

隊集会の主な目標: 隊員間の食料で料理を作り、指導(指導者=清化)に学ぶこと。
スナックは指導者から料理をいただき。

項目	時間	担当	内容	準備品他
集合	10:20		ピクニック前	
せしこー	10:20		レストランホム亭の厨房 準備が整った。 厨房は11時半まで。 スナックを準備 「おんたけ」 「おんたけ」	ピクニックの机に テーブルクロスなどを準備 料理を準備したテーブル (3枚(各1枚の木)) 「ツバーナ」 「おんたけ」→「おんたけ」 「おんたけ」 (おんたけ(伊))
準備開始	10:30		各料理ごとに厨房内で 購入した食料を 調理開始 メニューの用意 おんたけ	
1				
厨房	11:30		料理が準備完了 11:5, (おんたけ) 「おんたけ」 「おんたけ」 「おんたけ」	「おんたけ」の準備 「おんたけ」の準備 「おんたけ」
	11:45			

項目	時間	担当	内容	準備品他
<p>11:45 11:50 12:10 12:15 12:20</p> <p>長谷川君 としろ二一 終了</p>			<p>二つこ;持 入付者12 指導者側から、お村様 指導者 得つ者から 食事の証拠として 全体用紙 巻紙打手</p>	<p>お礼の言葉で ・工夫して など、お礼の言葉 ・次回以降は、お礼の言葉 ・お礼の言葉、お礼の言葉 ・お礼の言葉、お礼の言葉</p>
<p>班長</p>			<p>井ノ口君 お礼の言葉に お礼</p>	

班長訓練実施計画書

■ 集会日時

■ 集会場所

国倉庫

■ 月の活動

テーマ: アウトドアストラレボーイ亭 Xmas

活動分野: 野外部料理

進歩課目: 12-3 E4-2, 3, 4, 5

目標: おいしい料理を提供する

隊集会: 12/23 山中

■ 班長訓練の目標

- ・ 7012 グラウラの意義を知り
- ・ ツーバーナーの持ち方20ヶ所を知り、実践する
- ・ 班集会計画を作成する

時間	内容	担当	準備品他
10:00	セシモニー 全員は5リバーンバーにそろおう		
10:05	隊長が隊集会の経緯 1ヶ月前に、おいしいものを食べたい という考えから、アウトドアにしようとしたら、おもしろ い。そこで、ツバーナーの持ち方、おいしい 料理の作り方を、隊集会で学ぶ。 班集会計画をこの2ヶ月に、各2週間 で、各自が作成する。		← 2ヶ月前に練習
10:10	G13担当副隊長が経緯を説明 する		
10:25	ツバーナーの持ち方20ヶ所を 説明 → 各自が作成する		WS
10:40	班集会計画を作成 (2回分)		
10:55	セシモニー 途中で4人(在支店)は 20分間		

時間	内 容	担 当	準 備 品 他

)

)

自己の訓練ニーズ	選択されたプログラム実施による解決の可否とその理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 隊長の研修 ・ 中隊長の研修 ・ 2012年7月2日～9日までの研修 ・ 中隊長の2012年7月(研修) ・ 若い指導者の育成 ・ CS研修(新指導) ・ CS研修(新指導) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な研修を次期に実施する ・ 個人研修として、保正者は「研修の機会を確保する」 ・ 研修実施の中で指導者を育成する ・ USASへの研修指導

自隊の問題点 (課題)	選択されたプログラム実施による解決の可否とその理由
<ul style="list-style-type: none"> ・中1GBへの自己を任せ子 ・文の読み取りがなす 	<p>・班長に任せ子で、これにて任せ子</p> <p>——</p>

班長訓練

◎〇△×

項目	評価	備考
実施計画の作成が適切であったか	△	
その計画の進捗状況が適切であったか	△	
行方によって、その計画に適合しているか	○	
- 班長としての役割が果たされたか	△	
- GR(班長)としての役割が果たされたか	◎	
班長集会や隊集会で GRがその役割を果たしたか	○	
必要に応じて人の支援を受けたか	○	
GRとしての自信を持って、役割を果たしたか	○	
- GRとしての役割を積極的に果たしたか	△	
班長のリーダーシップが適切であったか	○	
班長のリーダーシップが適切であったか	△	
- GRが積極的に満足しているか	○	
- 班長が積極的に役割を果たしたか	○	
計画が実行されたか	△	
目的を示したか	△	
XPを取ったか	×	

班集会 (11月) 評価表

項目	評価	備考
友だちとあそびの楽しさを感じたか	△	
1学期の学習成果に向けて頑張ったか	○	
行事への参加が楽しかったか	○	
クラスメイトの成長を感じたか	○	
クラスのルールを守ったか	○	
クラス長が、よくリーダーシップをとったか	◎	
クラスメイトとよく協力したか	—	
クラスメイトが、学習意欲を示したか	○	
クラスメイトが、 <u>学習意欲を示したか</u> (学習意欲を示したか)	◎	
全体が学習意欲を示したか	○	
出席率100%	◎	
話し合い	◎	
理解	○	
11月に行われたか	○	
クラスの行事計画が、よく進んだか	△	

隊集会

項目	評価	備考
大かいと大まかに実施に十分な場を設けたか	△	
班長訓練、班集会の進捗が十分進んでいたか	◎	
班員4名が30分程度が及第で進捗	○	
20分程度、20分程度、20分程度	◎	
- (全体へ)		
班長を中心に班員が活動ができたか	○	
20分程度、30分程度、20分程度	○	
本人の志願は十分進んだか	○	
班員が20分程度に及んだか	◎	
安全管理に留意したか	◎	
今後×年7012採用に留意したか	◎	
指導者、班員が十分な進捗ができたか	◎	
全体として20分程度は十分進んだか	◎	
班員が20分程度	○	
指導者の役割分担	◎	
セシエー	○	
競争力向上	○	
評価方法	○	

お

グループ作業2: 保護者のニーズの取り入れ(20分)

グループ

<p>どの場面で</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集会の前後 - 入会式、退会式、行事、お祝い - 通学 - 行事、地区で会合時に 適宜
<p>どのようにして聞き取るか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合い、お話し、 - X-1、 - プレシート - 聞き取りシート
<p>どんなニーズを(こと)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の将来像について、 - 将来像、内容、判断 - 通学、行事 - 通学、行事、お祝い
<p>聞き取りに必要な準備・スキル</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ちかいとおきての熟知 予、お話し

§ 10 成人の支援とアプローチ

WB実修所BS186期

グループ作業1: 成人の具体的な活用方法(30分)

グループ

各班で企画・立案した隊集会までの作業を振り返り、それぞれの場面でどのような支援を求めることができるか

どの場面で	どのようなことを	誰に	その他
隊集会	ポイントで飲み物を出す	保護者	(送迎の時に依頼する)
<p>全体 E4班訓練</p> <p>隊集会</p>	<p>送迎 山中×歴史 野宮塔×歴史 道草2-170</p> <p>CP × 90分</p>	<p>保護者 他2名 塔長</p>	

WB実BS186 セッションの自己評価及び日々の感想

4日目 11月4日

グループ名：

氏名：

§ No	【セッション名】 (自己評価項目)	達成度	自己評価記入欄
§ 12	【より良き指導者と楽しい活動に向けて】		
	①実務訓練について理解できましたか？		
	②インサービス・サポートについて理解できましたか？		
	③役割と責務を果たすために継続的な自己研修の必要性を理解できましたか？		

◆新たな学習テーマや気づき

◆本日の感想記入欄

◆チューターからのコメント欄

サイン：

3日目 11月3日

グループ名: 11月7日 G-1 氏名: 中川 和也

§ No	【セッション名】 (自己評価項目)	達成度	自己評価記入欄
§ 8	【プログラム活動】		新しい木材を コーンキナーター の2つの書の内容
	①計画書に基づいた活動を実施展開できましたか?	A	
	②プログラムの実施展開について実際に必要な項目を理解できましたか?	A	
§ 9	【プログラムの評価】		評価の重要性を 理解できた。 評価の方法について 理解できた。
	①評価の必要性を理解できましたか?	A	
	②評価の方法について理解できましたか?	A	
§ 10	【成人の支援とアプローチ】		この部分の重要性 性が改めて 認識できた。
	①ボーイスカウト部門の活動における成人の具体的な活用方法について理解できましたか?	A	
	②隊を取り巻く成人とのコミュニケーションの重要性を理解できましたか?	A	
§ 11	【自隊のプログラム作成】		班長がリーダーと なった。
	①自隊の状況にあったプログラムを立案できましたか?	A	

◆新たな学習テーマや気づき

自隊にも、この評価方法を考えようとした。定量的にも可能。
チェックリストも可能と見た

◆本日の感想記入欄

面白くなさそうなプログラムが、意外面白かった。という
スカウトの評価を聞いたことがあったが、今日は自分で
やる実感した。
スカウトのプログラムはゲームである。

◆チューターからのコメント欄

本日はありがとうございました。
見守らせて下さい。

サイン:

中川 和也

STA完修証

はくばし 班

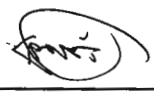
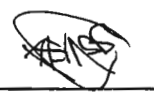
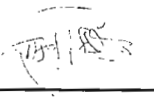

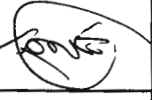
中川奈之 様

あなたはウッドバッド実修所ポーンイスカウト
課程 第186期において S. T. A
(閑時作業課題) をすべて完了しました。
その結果得られた 貴い経験を 今後の
スカウト支援に十分生かしてください。

平成26年11月4日

WB実修所BS課程第186期

主任所員 村山 大介

No	課題 Subject	担当者	日付	サイン
①	班旗づくり BS隊に相応しい班名、班呼を決 定し、第2日目の朝までに 班旗を完成させる。 布は支給	リーダー	11/2	
②	班歌づくり スカウトソングの替え歌でOK、 班歌を作り披露する。	リーダー	11/2	
③	ウォツグルづくり 実修所第三教程修了後着用する ウォツグルを作成する。 材料支給	リーダー	11/2	
④	野営場の整備 野営場の整備作業を計画、実施 する。第3日目の夜までに作業を 終了させる。	リーダー	11/4	
⑤	野営場の風景の記録 野営場内で自分の気に入った 場所を最低2か所スケッチする。	リーダー	11/4	

6 中川奈之
中川奈之

隊集会実施計画書

中1年2組

集会日時： 12月23日

集会場所： みどり保育園

テーマ： レストラン停泊会

当番班： ホームインナー班

活動分野： 料理

進歩課題： 信仰奨励章

隊集会の主な目標： 感謝の心を忘れずにおいしく楽しむ

項目	時間	担当	内容	準備品他
集合	9:00	三浦礼奈	室内で実施	国旗、隊旗
集合	9:10	中川	隊長の話し、クリスマスのお話	
スカウトウォーク	9:15	=	11人が各テーブルにかけ、感謝の心を伝える	
施設説明	9:20	菅原副長	みどり保育園の様々な施設を説明	
お話し 調理開始	9:30	=	要請された食材を提供	購入食材 調味料など
レストラン改修	11:00	大森由紀	運営、進行担当スカウトが かたづけ、テーブル準備	テーブルクロス
	11:30	=	南窓時の取り忘れ	
南窓	11:45	=	保ご者、団幹部等へ (持ってきた食べ物は持参者別に)	汁かけ(カレー)
		=	飲み物、メニュー提供	(班長)
お話し	12:00	=	お食事スタート (リーダー提供も)	バキ、ケチャップ
総着席 席かき	12:20	中川	保ご者料理も提供 スカウトも着席食事	
食事終了	13:00	菅原副長	かたづけ 終了後お話し	保ご者は別室に 移動し保ご者会
お話し 解散	14:45 15:00	三浦礼奈	タッグット持ち	(保ご者も参加)

班長訓練実施計画書

中川和之

■ 集会日時

11月22日 午別

■ 集会場所

国倉庫前

■ 月の活動

テーマ: L2 ストーンボーイ等のXmas料理

活動分野: 野外料理

進歩課題: E2, F1

目標: 感謝の気持ちを表わす

隊集会: 12月23日 みどり保育園

参加者: カヌー班長 田中3番
小川次長 中川

■ 班長訓練の目標

- ・ 班長が班長に全体の流れを説明できるように考えを共有
- ・ ツーバーナー、かまど等の使い方を教える

時間	内容	担当	準備品他
9:30	集合、セシエニー、ツィグ	清水副	国旗
9:40	隊長からの説明 ・ 班長が班長に班長集会に期待する点 ・ 班長集会で済むことは説明 ・ GBから十分な準備を促す	中川	ハンカチ4枚 イス、机 班長向け企画書 XmasカードWS
10:10	GB 試し ・ 班長集会に向けての準備 ・ ことを整理してリストアップ ・ 分からぬことは清水副、大和副に聞く	清水副 (大和副)	
10:40	ツーバーナー、かまど等の使い方訓練 ・ 班長集会で班長に練習を促す ・ 使い方、手入れ方法を学ぶ	岡本副	
11:10	班長が班長集会計画書を作成	清水副 岡本副	PC 20リットル 紙
11:40	計画書、隊長4人チェック	中川	
11:50	GBの進捗チェック	中川	
11:55	セシエニー、ツィグ	清水副	
12:00	解散		

集会名	スラボ停泊店計画		責任者名	かやと
日時	11月23日午前		場所	団倉庫前
テーマ	クリスマス料理を考えよう			
プログラム詳細	9:30	9:00GB	集合。セシニー、リンク(待合)	
	9:40		1.班長から班集会の内容説明 キーマードは「楽しい、おいしい、盛装の心」。 賞状を1枚付与。70セントは授与は説明。	
	9:50		当日のメニューを5つ選んで決める(12は 確認)	
	10:20		当日の70セント全額を決める	
	10:30		当日のボイ停泊のサービス方法を考えよう	
	11:00		指導者も得点者のクイズに2票を 10考えだす。 (メニューは予算以内で決まることが前提)	
	11:30		班長の進捗の管理	
	11:45		セシニー 次回の話	
12:00		解散		
必要資材	リンク4シート お礼状4枚、入 (クイズと授与は「金庫券」に4)		必要経費	
伝達・予定	- 次回の班集会までに考えたメニューに必要材料 の調べをスラボで行うこと。どの材料は事前に作りか 考え、調査を持ってくることを班長に指示 - リンクに、確定したメニューを伝達し、次回の希望事項を伝達			
備考				
隊長承認				

班集会実施計画書

ホムランド一班

中山和子

集会名	ラストホムランド準備		責任者名	かやの班長
日時	12月14日		場所	団倉庫前
テーマ	クリスマス料理を準備しよう			
プログラム詳細	9:00	GB集合 打合せ、指導者準備の呼び出し		
	9:30	集合 せしめニ、11:30		
	9:40	班長から本日の流れを説明		
	9:50	メニュー(3つ)を決定。 協力の方法 班長に調査表に基づいたメニューを実施。 みんなが指導者などとして決まりごと		
	10:20	メニューの作り方を調査表を元に検討し、 必要な材料、器具を決定。		
	10:50	メンバーの役割の指導、お決まりの 係り者への招待状を作成 (温かい飲み物を 11:30に)		
	11:30	当日の進行と3つを作成		
	11:50 12:00	せしめニ 解散		
必要資材	12/14レント おいたたみイス、机 メンバー (持ち物-マイカ、70)	必要経費		
伝達・予定	隊長に決定メニュー伝達。			
備考				
隊長承認				

ハヤブサ

グループ 中川 友之 の自己研修計画

研修ニーズ (自己研修のテーマ)	研修の手段・方法	支援を受ける人
<p>・実施プログラムにむけて自分に必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none">● 12月期長が予定している副長との連携を強化し、その継続的な取り組みを一緒に作り出す。	<p>早期に個別相談を申し込む。副長との連携強化を図る。</p>	<p>大和田副長(本人) 吉野副長</p>
<ul style="list-style-type: none">● 上級研修の存在を踏まえ、副長との連携を強化する。	<p>早期に個別相談を申し込む。副長との連携強化を図る。</p>	<p>三浦副長(本人) 大和田副長 吉野副長</p>
<ul style="list-style-type: none">● 保工者ニーズへの対応と、アウトソーシングの活用	<p>12月期長との個別相談を申し込む。副長との連携強化を図る。</p>	<p>大和田副長(本人) 吉野副長</p>

チューター 金糸 雅弘

所長



それを行う期間	その結果どうなったか	自己評価
*122-2 ^h 11月～12月		
*222-2 ^h 1～3月		
*122-2 ^h 11月～12月		
*222-2 ^h 1月～8月		
*122-2 ^h 12月～2月		
*222-2 ^h 3月～8月		



ウッドバッジ実修所 第三教程（実務訓練）

ボーイスカウト課程

実務訓練は、ウッドバッジ実修所の第二教程(プログラムトレーニング)を終えたあと、履修者が、どのように隊の指導をしたか、その状況をありのままに報告するものですが、第一教程（課題研究）や第二教程で得たものが、隊の運営にどのように反映し、隊活動がどのように改善されたか、また配慮した結果、隊活動がどのように変化し、進歩したかについて記録することです。

自分の隊をよくするために、どのように努力したのか、あなたの実践した記録をまとめ、自己評価とあわせて報告してください。

<課 題>

課題1 プログラムトレーニングで作成した隊集会計画書に基づくプログラムプロセスを図示するとともに、必要な計画書を作成してください。

課題2 計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。

課題3 コース中に作成した自己研修計画の内、最低1つの成果を報告してください。

課題4 上記1、2の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

以上、第二教程履修後の実務訓練を、コミッショナーやトレーナーの支援を受けながら報告書を取りまとめ、実績を立証する記録資料（事例など）を添付して、第二教程履修日から1年以内に、所属県連盟コミッショナーへ提出してください。

<注意事項>

1. 報告書は、A4判横書きに記し、表紙をつけ課題ごとに問題を記述します。とじ方は、左とじとします。
2. 実務訓練報告書の提出先は、所属県連盟コミッショナー宛として、県連盟事務局へご提出ください。
3. 提出期限までに、実務訓練報告書を提出することが原則ですが、第二教程履修日から2ヶ年間経過した場合は、ウッドバッジ実修所の修了が認定されません。
(課題研究・基本訓練履修認定は、それぞれ履修日から2年間で失効します。)

ウッドバッジ実修所第三教程（実務訓練）

ボーイスカウト課程第186期

所属	連盟 第 団 隊 (役 務)									
登録番号										
フリガナ氏名										
住所	〒 Tel :									
生年月日	昭和・平成		年	月	日生	満	歳			

課題	指導助言した事項および所感	指導した人
1		
2		
3		
4		

県連盟コミッショナーの所見・履修認定

平成 年 月 日

署名 _____ 印

※県連盟コミッショナーの履修認定後、本状コピーを日本連盟事務局へお送りください。

※日本連盟処理欄		修了年月日 平成 年 月 日
----------	--	-------------------